

以下、本文-----

下記臨床研究は「東海大学医学部臨床研究審査委員会」の承認および研究機関の長の許可を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。

本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。

本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

人工骨頭置換術後の短外旋筋群の術後筋力に与える影響 -後外側アプローチと共同腱温存後方アプローチの比較検討-

1. 研究の対象

2020年4月1日から2022年6月30日までの間に、東海大学医学部附属大磯病院の整形外科で大腿骨頸部骨折に対して人工骨頭置換術を受けられた方です。

2. 研究目的・方法

目的：下記の項目3に記載する診療情報等を利用し後ろ向きに調査し、人工骨頭置換術(BHA)を施行した患者のうち共同腱を温存せず切離し手術を行い閉創時に共同腱を修復する操作を行う通常の後外側アプローチであるPL(posterior lateral)群と、共同腱を切離せず温存し手術を行う共同腱温存後方アプローチであるCPP(conjoint tendon preserving posterior)群にわけ、BHA術後の短外旋筋群の術後筋力を、筋力測定による直接的評価とCTを用いた筋断面積・変性の客観的評価を多角的に比較検討することを目的としています。

方法：大腿骨頸部骨折に対してBHAを施行し、日常診療中に筋力測定を行えた術後6か月以上経過観察可能であった患者15例を対象として診療録を用いて後ろ向きに調査します。PL群9例とCPP群6例を2群に分類し比較検討を行います。この研究に使用する情報として、診療情報から項目3に記載する情報を抽出して使用させていただきますが、氏名、生年月日などあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようにプライバシーの保護には細心の注意を払います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・診療情報等：診断名、手術時年齢、性別、術前待機期間、身長・体重から計測する body mass index(BMI)、歩行開始時期、転院になった割合、単純 CT 結果(筋断面積、CT 値)、筋力値。

4. 情報の提供先・提供方法

この研究は、該当しません。

5. 利益相反に関する事項

この研究は、特定企業等からの直接的な資金提供はないため利益相反はありません。

6. お問い合わせ先

東海大学医学部付属病院 （電話：代表 0463-93-1121 内線：2320）

研究責任者 整形外科 横山 勝也

問い合わせ担当者 整形外科 横山 勝也

-----以上